

式 辞 （令和7年度 卒業式）

夢前川のせせらぎにも、やわらぎと春の暖かさが感じられる今日の佳き日、兵庫県立夢前高等学校 第52回卒業証書授与式を、姫路市議会議員 東影昭様、PTA会長 高島裕美様をはじめ、多くのご来賓ならびに保護者の皆様のご臨席を賜り、挙行できますことは、私ども教職員にとりまして、この上ない喜びでございます。本当にありがとうございます。

第52回生の皆さん、ご卒業おめでとうでございます。また、保護者の皆様におかれましては、お子様のご卒業、誠におめでとうでございます。心よりお喜び申し上げます。これまで、本校の教育活動に格別のご理解とご協力を賜りました事、重ねて感謝申し上げます。

卒業生の皆さんは、楽しいこともあったでしょうが、悩み、つらいこと、孤独感、自分の力ではどうしようもなかった事もたくさんあったと思います。いろいろなことを頑張り、また辛抱してきた皆さん、今日はそんな自分を「本当によく頑張った」と是非褒めてください。

皆さんと共にした高校生活は、夢前川の川面に揺れる、無数の光のきらめきのように、美しく、はかなく、かけがえのない思い出として私の心に残っています。皆さんと何気なく交わした会話、授業の様子、笑顔、笑い声、しんどそうですが頑張っている様子、放課後、校舎から響く吹奏楽の音色。

私の心に触れる皆さんがいたから、私自身も充実した毎日を送ることができました。こんな皆さんの存在があったからこそです。いつも皆さんには感謝の思いがありました。本当にありがとう。

卒業後は、新しい世界に飛び込んでいきます。相変わらず、大変なことに会うでしょう。自分の力では解決できないことも経験します。失敗もたくさんします。ですが、つらいことがあっても、「トンネルは必ず抜ける」「いつまでも続かない」「なんとかなる」ものだと思います。マイナスに考えすぎて、心に闇を作ってしまうかもしれません。そこに立ち止まりすぎても、良くならないことがあります。その場しのぎであっても、気を紛らわせることは次の一步につながるかもしれません。

次に、皆さんが、新しい世界で幸せに生きていくことを心から祈っています。ただ、他人との比較の中で幸せを求めすぎると、自分に足らない所が気になって、両手ですくった幸せも、指の隙間からこぼれ落ちていきそうです。幸せの基準は自分の中にあります。「人は人、自分は自分」です。

幸せであることは、自分が気づいていない、感じていないだけで、実は周りにたくさんあるかもしれません。心が共鳴する、ささいな経験は、静かに、少しずつ心に積もっていきます。それは幸せであることかもしれません。「いい事が無い」なんて心を暗くさせずに、焦らずマイペースで生きてください。幸せはゆっくりです。

本校の校訓に「健康」があります。若いときはあまり意識しませんが、大切です。つらい時、心や体にサインが出たら、無理を継続しないことです。心と体を楽にしてやれるように休むことは、ストレスの多い社会では大切です。また、心の健康には「心のゆとり」も大切です。生きることに精一杯で、自分を追い込み過ぎていないか、時々振り返ってみてはどうでしょう。

最後に、「明日」は明るい日と書きます。たとえ今つらくとも、「塞翁が馬」といいます。何が良いかは最後までわからないものです。落ち込み過ぎず、短気を起こさず、明日は明るくなると信じて、前向きに生きてください。

皆さんに感謝しています。皆さんのことは、桜爛漫の春を迎えるたびに、何度も思い出すことでしょう。

皆さんと出会えて良かった。

皆さんの人生が幸せでありますように、心よりお祈りし、式辞と致します。

令和八年二月二十七日

兵庫県立夢前高等学校長

田中 良夫